

仕事の現場から

Vol.16

卒業生に
仕事についての喜びや、
獨大生に向けてのメッセージを
語っていただきます。

夢中になる力が、苦手も得意に、
夢を現実に変えてくれる。



私の職業である航空管制官は、航空機が効率よく安全に航行できるように空の交通整理を行うことで、具体的には3種類の業務があります。飛行場を中心に半径9km、高度9000m圏内を飛行する航空機に対する離着陸の許可、滑走路上の安全確保などを目視で行なう「飛行場管制業務」、空港から約100km圏内の航空機を扱う「ターミナルレーダー管制業務」、そして航空路と呼ばれる空の道を巡航中の航空機を



羽田空港航空管制官
北川 翔 さん(19年交卒)

主に担当する「航空路管制業務」です。

私の担当は東京国際空港、通称、羽田空港での飛行場管制業務です。羽田空港は4本の滑走路を抱え、日本でも最大の交通量を誇る空港です。ピーク時には1時間で90機、40秒に1機というハイペースで離着陸が行なわれております。

私がこの職業を志したのは高校2年生の時。修学旅行で初めて航空機に乗り、その魅力に触れました。その時放映されていた羽田空港の管制官をモデルにしたドラマが好きだった私は実際に航空機を見て、それに関わり、英語を操って働く航空管制官の姿に強く憧れました。

実際に働いてみると航空管制官の業務は責任が重く、日々努力が求められます。最初は目視で航空機の距離を測るのも難しく、空港によって異なる、様々なルールを覚えることも大変でした。また、仕事は毎日気が抜けません。不測の事態が発生した時にも臨機応変に落ち着いて対応することが求められます。安全を守りながら効率的な運航を支えることができるよう、日々シミュレータなどを用いて訓練も行い、技量の維持、向上に努めています。

たくさんさんの命を預かる大変な仕事ですが、私がこの仕事に就けたのも、獨協大学に進学したからこそです。実は管制官を夢見たばかりの頃は、英語が最大の苦手でした。「将来使う予定もないし

勉強しなくてもいいだろう」とまで考えていたほどです。しかし夢を抱いたことで一念発起、猛勉強して大学へ合格しました。この大学を選んだことは大正解だったと感じています。

英語のレベルが高い学生や留学生も多く、学習環境にも恵まれた大学で過ごした4年間は、私の英語のレベルを大きく高めてくれました。ゼミでの研究やアルバイト、友人や先生との関わり、趣味の旅行など、大学時代には多くの経験をし、視野を広げることができました。紙の地図だけを持って一人で海外旅行に行ったこともあります。それも国際色豊かな獨協大学で英語を学び、様々な文化に触れていたからできたことです。当時の経験は、私の仕事や人生に大きく影響しています。

どうか在学生の皆さんも、いろいろなことに取り組み視野を広げながら、全力で打ち込めるものを見つけてほしいと思います。私の周りを見ても、全力で何かに取り組む人は、人生を楽しんでいます。趣味でも勉強でも、熱中できる何かを見つけて楽しい大学生活を送ってください。



北川さんのある一日のタイムスケジュール



※マスクを外している写真は全て管制運用室外において撮影